

今後の日米関係について

報告者 吉原 瑠久

野寺 充峻

目次

- 問題意識
- 大統領選挙の結果
- バイデン新体制始動
- これからの日米関係
- まとめ
- 参考文献

問題意識

2020年11月3日に実施されたアメリカ合衆国大統領、副大統領を選出するための選挙が行われ、ジョー・バイデン前副大統領が就任することが確実となった。これからの日米両国の政治外交関係、経済関係がどのように変化していくのかが注目される。本研究では、バイデン氏のこれまでの発言等を中心に今後における日米関係を展望してみたい。

内容

- バイデン氏は「バイデン政権ならば同盟を重視する」と発言し日米関係は重視される。
- 日米間の難しい課題となるのは日米中の三か国関係である。
- 環境・エネルギー政策をより、積極的に投資開発を進めることを掲げているなかで、日本企業・政府は最近環境対策を講じていこうとしており、日米間での環境面での協力体制が望まれる。

結論

- バイデン政権になると米中関係が改善する反面、日本は通過の憂き目に会うという懸念があるようだが、この点については恐らく心配は無用である。
- 日米中の三か国関係をいかに安定させるか、問われているのは日米両国の緻密な政策構想力である。
- 環境・エネルギー政策をより、積極的に投資開発を進めることを掲げているので、環境関連技術を得意とする日本企業にとってはビジネスチャンスとなるだろう。